

## 「青天を衝け」と大川家

(渋沢栄一大河ドラマ「青天を衝け」放映に伴うQ & A)

Q 1 「青天を衝け 紀行」で放映された大川平三郎翁<sup>おう</sup>記念公園（大川道場跡）とはどのような場所ですか？

A 1 大川平三郎翁記念公園は、郷土の偉人である大川平三郎翁を顕彰する事業の一環として平成19年（2007）年に整備、開園しました。元は、平三郎の祖父で神道無念流<sup>しんとうむねんりゅう</sup>の剣術家である大川平兵衛<sup>へいべえ</sup>が道場を構えていた場所です。

●大川平三郎 万延元年（1860年）～昭和11年（1936年） 享年77歳

●大川平兵衛 享和元年（1801年）～明治4年（1871年） 享年70歳

Q 2 「青天を衝け 紀行」で放映された大川平三郎翁記念公園内にある頌徳碑<sup>しょうとくひ</sup>（偉人の徳を称える文章を刻んだ碑）はどのようなものですか？

A 2 この頌徳碑は昭和9年（1934年）にサハリン（旧・樺太）の産業発展に力を尽くした大川平三郎の功績を称えるため、サハリンの恵須取町民<sup>えすとり</sup>によって恵須取町（現ウグレゴルスク市）に建立されたものです。平成4年（1992年）に桜影会（大川育英会の恩恵を受けた人たち）の願いによって坂戸市役所前に移築され、その後、平成19年の記念公園設立の際に現在の大川平三郎翁記念公園内に移設されました。

Q 3 「青天を衝け 紀行」で紹介された大川平兵衛に関する史跡等は坂戸市内にありますか？

A 3 大川平三郎翁記念公園の南（駐車場の脇）にある大川家墓所に大川平兵衛の頌徳碑があり、平兵衛の墓の上に建てられています。これは、元福井藩主松平春嶽<sup>しゅんがく てんがく</sup>が篆額（石碑の上部に書かれた題字）を、明治の三筆の一人である日下部鳴鶴<sup>くさかべめいかく とうさく</sup>（東作）<sup>ひぶん</sup>が碑文（石碑に彫りつけた文章）を書いたものです。撰文<sup>せんぶん</sup>（碑文の文章を作ること）は平兵衛の剣術の弟子であった尾高惇忠<sup>じゅんちゆう</sup>（富岡製糸場初代場長）によるものです。裏面には渋沢栄一や渋沢喜作、尾高惇忠の名前も刻まれています。

●尾高惇忠 文政13年（1830年）～明治34年（1901年） 享年71歳

●渋沢栄一 天保11年(1840年)～昭和6年(1931年) 享年92歳

Q4 大川平三郎翁記念公園へはどのように行ったらよいか。

A4 東武東上線若葉駅東口から直進で北東へ進み、車で10分程度の距離のところにあります。カーナビ入力であれば、地番は坂戸市横沼333番地です。

バスの場合、若葉駅東口から東武バス(川越駅行もしくは東坂戸団地行)に乗車して東坂戸団地停留所で下車し、徒歩で約15分程度です。停留所の近くにある交差点を左折(北へ向かう)し、すぐの橋(大谷橋)を渡り、その道を1キロほど直進すると看板があるのでそこを右折(東へ向かう)してすぐです。

また、本数は1日に5本と少ないですが、市民バス(さかっちワゴンみよしの線)で若葉駅東口から乗車して横沼停留所で下車し、徒歩で2分程度です。

Q5 他に渋沢栄一と大川家の関係を示す史跡等は坂戸市内にありますか？

A5 大川平三郎翁記念公園の南(駐車場の脇)に大川家墓所があります。ここには平三郎は眠っていませんが(東京都北区田端にある大龍寺に墓があります)祖父平兵衛の頌徳碑があり、平兵衛の墓の上に建てられています。※Q&A3を参照

また、この墓所には大川<sup>はなのい</sup>花井という平三郎の叔母の墓もあります。花井は熊本藩細川家<sup>おく</sup>奥

女中<sup>じょちゆう</sup>を務め、細川家の姫が元福井藩主松平春嶽に嫁ぐ際に侍女頭<sup>じじょうしら</sup>になり、春嶽と福井藩士

橋本<sup>さな</sup>佐内の連絡係をするなど政治的な役割を果たしました。

●大川花井(ふさ子・きく) 天保2年(1831年)～大正4年(1915年) 享年85歳

Q6 大川平兵衛とはどのような人物ですか？

A6 平兵衛は享和元年(1801年)の生まれで、体格、体力ともに優れており、箱田

村(現在の熊谷市)の剣豪・秋山<sup>あきやま</sup>要助の門人となって修行に励み、二十歳で免許皆伝を授けられました。剣術家として優れていたばかりでなく、人徳も備えていたため門人たちに慕われて、横沼と川越の通町の道場は栄え、後に秋山要助が没すると、秋山門下の多くは平兵衛の門弟となってその総数は三千人を数えたと言います。

剣術家として名声が高まると、川越藩主松平直克<sup>なおかつ</sup>の目に留まって、藩の剣術指南役に取り立てられ、藩士の指導にあたりました。後に、藩主が前橋に移封になると、これに従って前橋に移り住み、その後松山(現在の東松山市)の陣屋で剣術を指導しました。

明治4年(1871年)9月に70歳で没すると、平兵衛を慕う門人たち569名により、隣接する大川家の墓地に「頌徳碑」が建立されました。

Q 7 大川平兵衛と渋沢栄一、尾高惇忠はどのような関係ですか？

A 7 平兵衛は二人に剣術を指導しました。平兵衛は渋沢や尾高などの豪農の家へ出張して、一、二日ほど泊まって出稽古をしていました。

Q 8 大川平兵衛は大川平三郎からみてどのような関係にあたるのですか？

A 8 大川平三郎の祖父にあたります。平兵衛は上野村（現在の熊谷市）の渡辺家に生まれ、同じ上野村のこぶな小鮎家の養子となった後に横沼の大川家に婿入りで来た人物です。

Q 9 大川平三郎と渋沢栄一はどのような関係ですか？

A 9 平三郎は栄一の甥で、栄一の妻である千代の姉みち子が平三郎の母です。また、大川平三郎の妻は栄一の四女、照子です。

平三郎が東京へ出て渋沢家の書生となり、じんしんぎじゅく壬申義塾やだいがくなんこう大学南校（東京大学の前身）

で勉強することの支援や、栄一が社長の会社であるしょうし抄紙会社（現在の王子ホールディングス株式会社）に入社させたりしました。平三郎は機械・製図の技術を独学で覚えて、後に製紙王とよばれるほどの大企業家になりました。

Q 10 大川平三郎と尾高惇忠はどのような関係ですか？

A 10 平三郎は惇忠の甥で、惇忠の妹みち子が平三郎の母です。

Q 11 坂戸市で大川家について展示等を行っている施設はありますか？

A 11 坂戸市立中央図書館に大川平三郎を中心として展示を行っている郷土資料展示コーナーがあります。ここでは、大川平兵衛の「しんとうむねんりゅうめんきょじょう神道無念流免許状」などが展示されています。ほかに、大川平三郎が孫に贈ったとされる雛人形も寄贈を受け、一部を展示しています。

また、大川平三郎の刊行物として『郷土の人 大川平三郎』、子供用である『郷土さかどの偉人 大川平三郎』の有償頒布を行っています。

なお、現在(令和3年3月時点)図書館は休館中です。ただし、臨時窓口で図書の有償頒布は2冊とも行っています。